

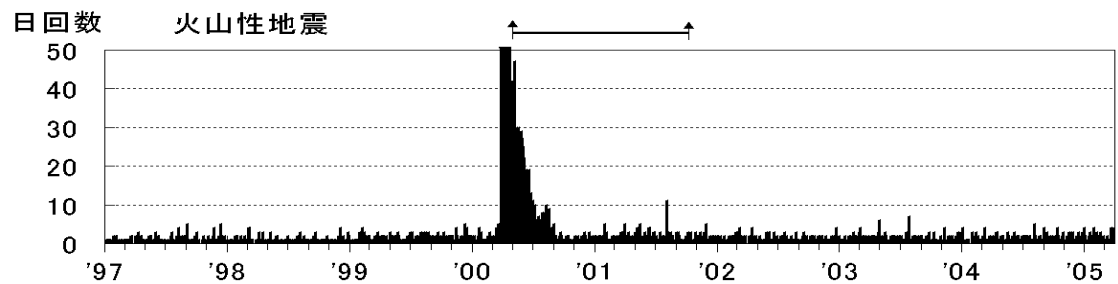
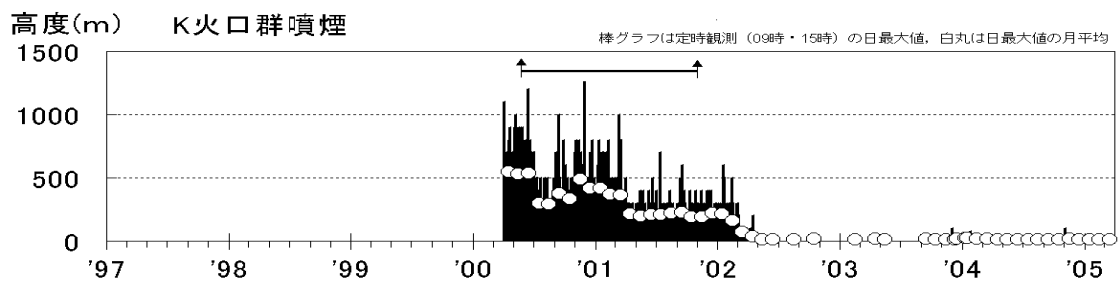
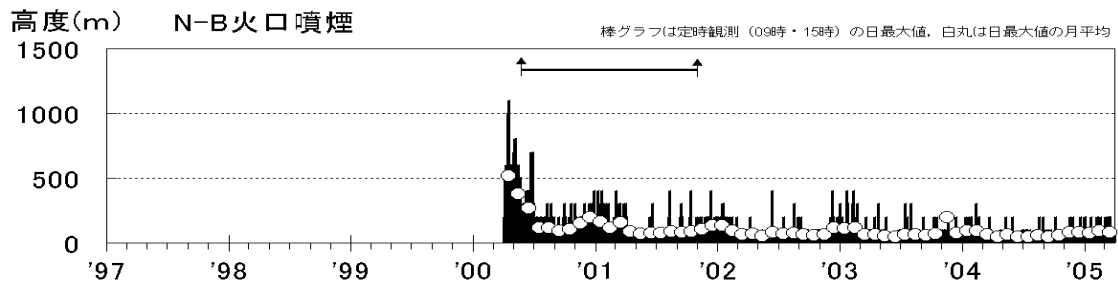
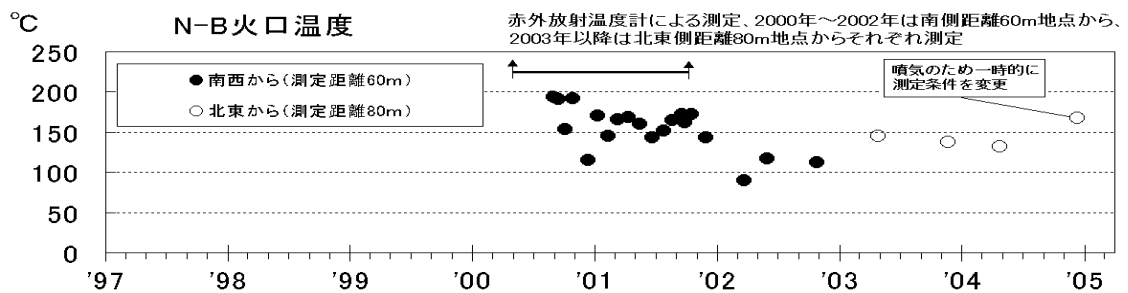
# 有珠山

## 1 概況

火山活動は静穏な状態が続いています。

## 2 噴煙の状況

西山西麓（N）火口群にある N-B 火口では、弱い噴気活動が続いており、噴気の高さは火口縁上おおむね 100m 以下で推移しました。金比羅山（K）火口群では、時折ごく弱い噴気が観測されました。その他、山頂火口原や昭和新山でも少量の噴気活動が続いていますが、これまでと比べて特に変わった様子は認められません。



最近の火山活動経過図（1997年1月1日～2005年3月31日）

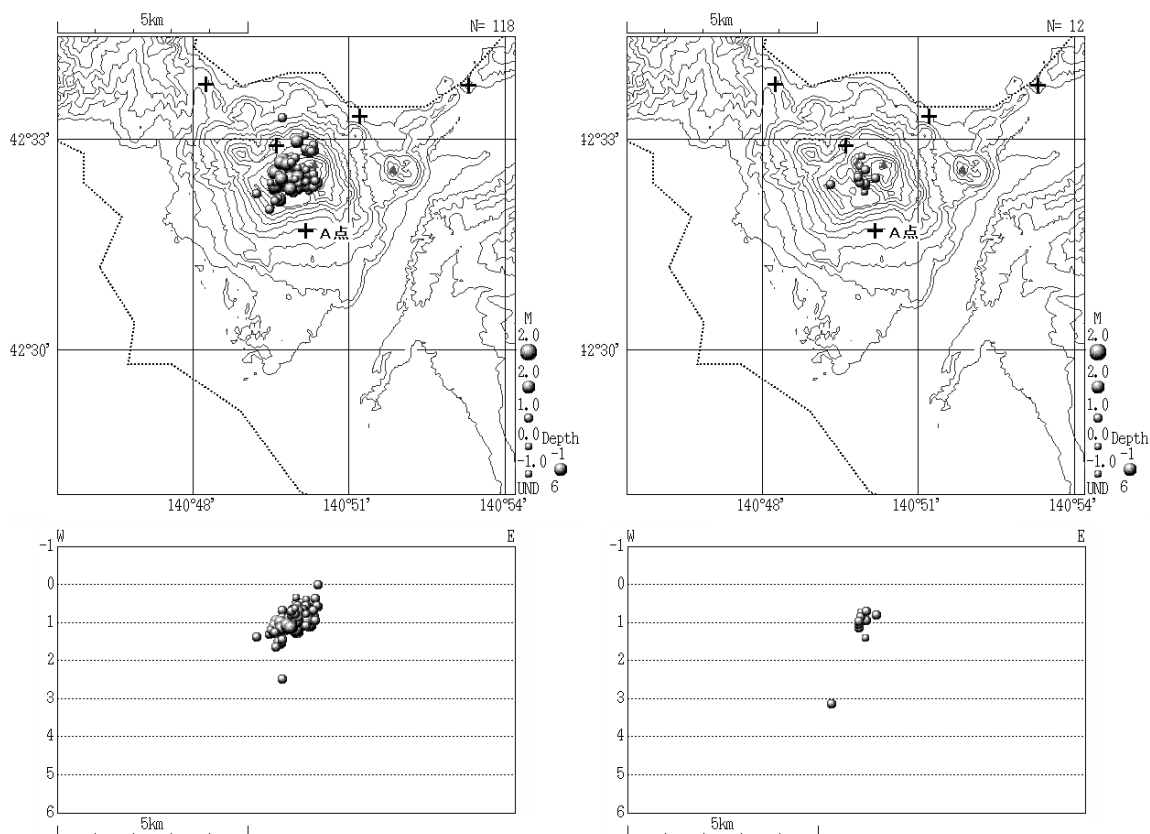
印で挟まれた期間は2000年噴火活動期

### 3 地震および微動の発生状況

火山性地震は 1 日あたり 0~4 回と少ない状態で推移しました。火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数（A点）

2004~2005年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地震回数	28	28	23	26	30	25	25	23	28	30	24	22
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



有珠山の震源分布図（丸印：震源 +印：地震観測点）

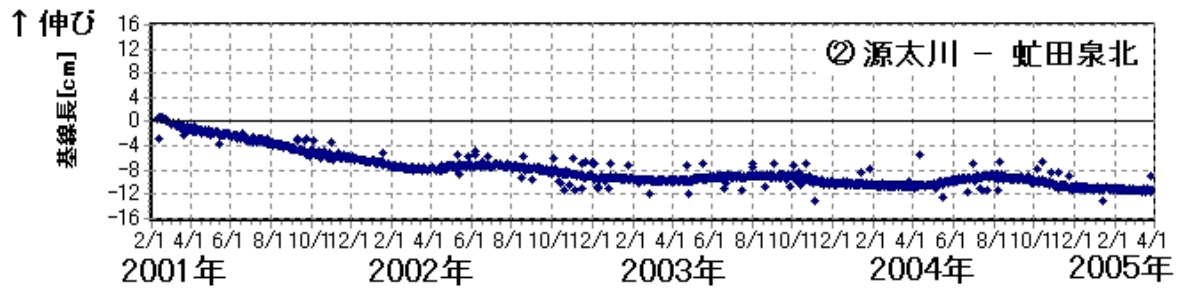
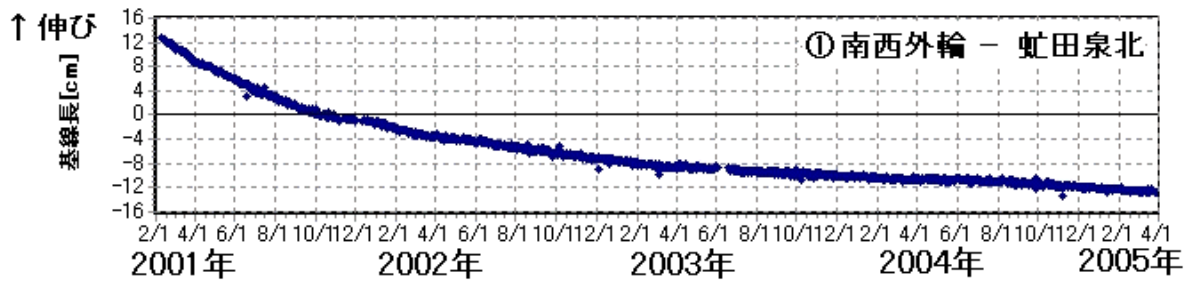
右図は今期間（2005年3月1日~31日）に求めた震源を示しています。

左図は前期間までの11ヶ月間（2004年4月1日~2005年2月28日）に求めた震源を示しています。

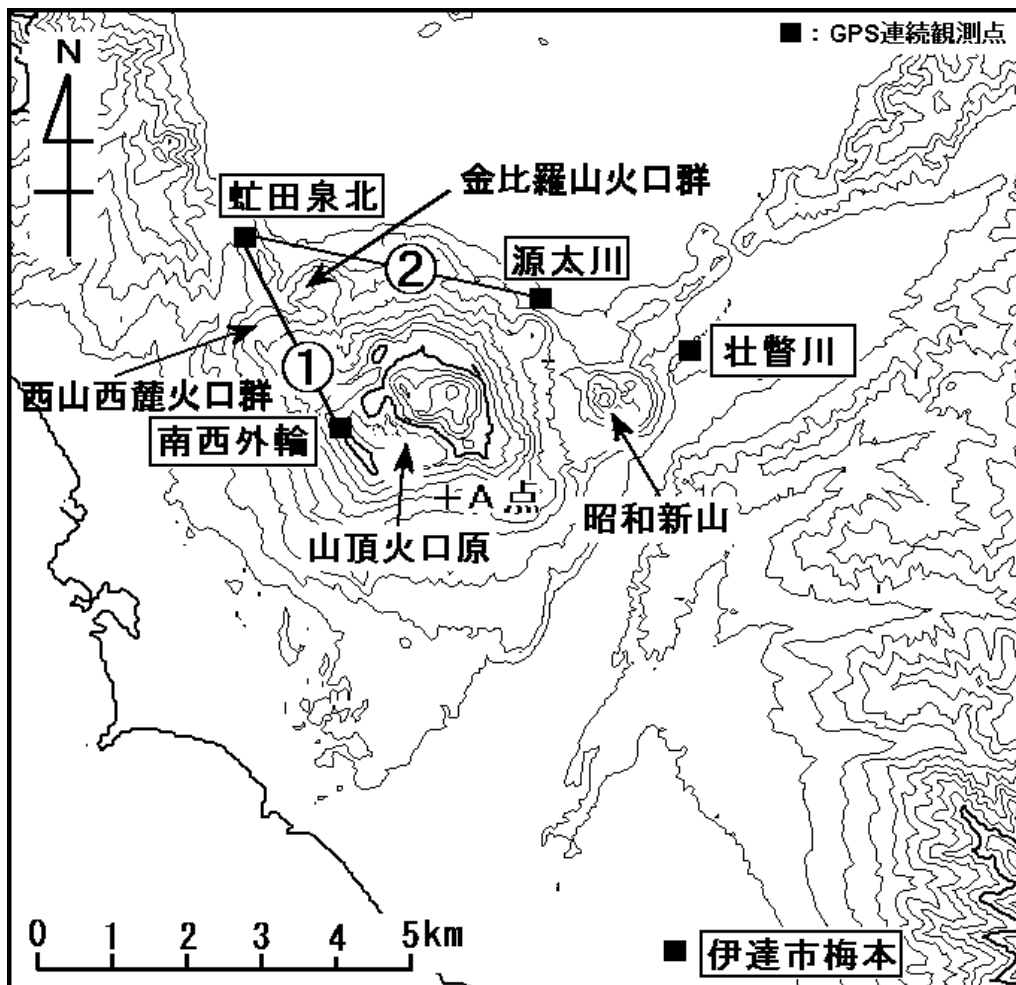
震源は山頂部直下の海面下1km前後に集中しており、今期間の震源もこの領域内に分布しています。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、特段の変動は認められません。



基線長変化(2001年2月9日~2005年3月31日)

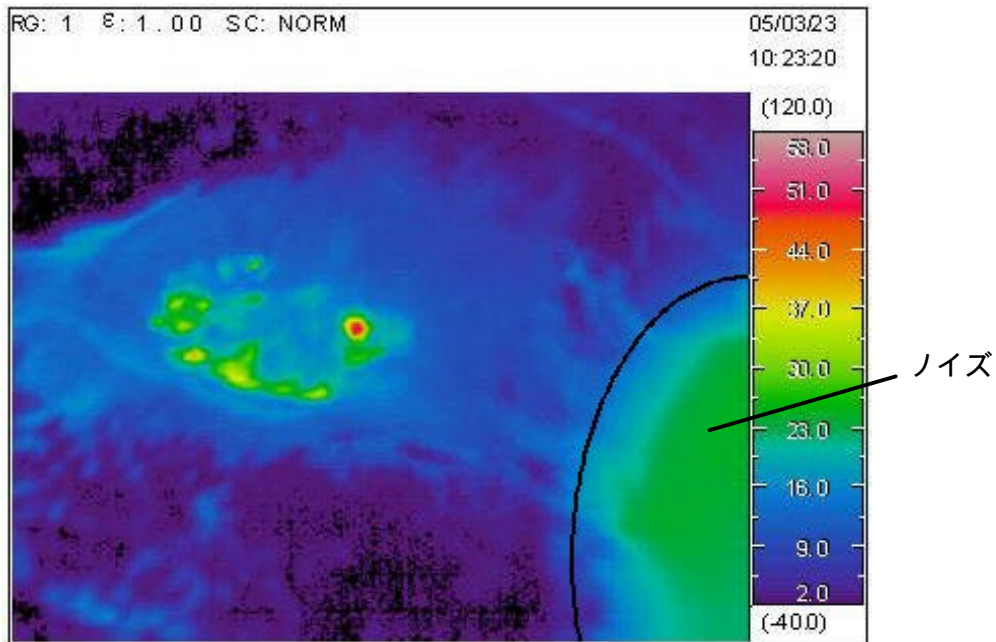


## 5 上空からの観測結果

3月23日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、山頂火口原のI火口、小有珠南東麓、銀沼火口、および西山西麓のN-B火口などから白色の噴気が上がっていました。金比羅山火口群では、K-B火口付近などからごく弱い噴気が認められました。これらの状況に特段の変化はありません。赤外熱映像装置\*による観測では、各火口の温度分布に変化は見られませんでした。



北側上空から見た N-B 火口



西側上空から赤外熱映像装置により測定した N-B 火口内の温度分布  
注) 右下の線で囲んだ緑色部分はノイズ

\* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。